

神鳥前川(しとどまえかわ)神社 横浜市青葉区しらとり台 61-12

文治三年（1187年）五月、武蔵国榭杉城主・稲毛三郎重成により創建されました。重成は敬神の念篤く、武神日本武尊（ヤマトタケルノミコト）及びその妃弟橘比売命（オトタチバナヒメノミコト）を御祭神としてこの地に祠を建て白鳥前川神社と名づけたと言い伝えられて居ます。白鳥というのは御祭神日本武尊が伊勢の国煩野（ノボノ）にて逝去の際、神霊化され白鳥になられたという故事により、また前川とは神域の真下を鶴見川支流の恩田川が流れおり、弟橘比売命（オトタチバナヒメノミコト）の入水の故事に重ね合わせて名付けられたものです。それがいつの頃よりか白鳥が転じて神鳥と書くようになり、これを「シトド」又は「シトトリ」と読むようになり、今日に至って居ります。

現在八坂神社、稲荷神社としてお祀りされている旧本殿はその後再建されたものであり、拝殿及び覆殿は文化九年（1812年）当時の地頭岡本玄治法眼を始め橋本、船橋宋迪、朝岡、星合鍋五郎等の寄進で再建せしものであると棟札に記されて居ります。（境内説明版）



手水舎



本殿(現在鈴緒を外している)



神楽殿(一心泣き相撲が行われる)



八坂神社(右)と伏見稲荷神社(左)



霊峰富士を祀ってある仙元社



千本鳥居(上から潜って下に降りた)